都高時報

第36号
都大附高新聞部
東京都目黒区金町591
編集者　夫　馬　隆　脇　寺
責任

昭和30年7月23日

新しい記念祭を

執行委員長は小澤君(2C)に

生徒大会

さる七月八日、本校講堂において生徒大会が開かれ、自治委員会由岡報告、記念祭執行委員長選挙が行われ委員長に小沢正英(2C)君が決定した。

まず壇上に岡田君(2C)が推薦され全員で承諾。続いて吉田自治委員長から自治会由岡報告があった。内容は、高校生会議、掲示権問題、予算会議、中研発足、映画「平和と友情」のこと、要旨は高校生会議は自治会の働きかけがたりなかったが、一年生が多く参加し掲示板問題については、かんとの生徒が規則化に賛成したがまだ学校側と話し合っていない。このごろの自治会が不活発なのは協力的でないし委員の自覚もたりなかったからである。三Bの委員が一人なのは「自治の権利を放棄している」。などその後処置について質問。かんとは高校生会議に関してであった。主なものは次の通り

吉田「勉強会のことをいった」

小沢「委員長がいつたことをもう一度いって欲しい」

吉田「自治会動の停滞を示した。またクラブ活動の停滞の原因として受験のことをいった」

この次には自治委員任期延長の問題を討議、記念祭執行委員長選挙に入った。

この時桑原君から「二年の記念祭への動きをどの様な活動があるか」との要求があり、陰山君が推薦されて「最初は微人で話し合いそれをクラス、学年に持ち込んだ小数は熱心、新しい記念祭を作ろうという意見は圧倒的」と答えた後推薦演説に入った。

小沢君(2C)を推薦した寺脇君「彼は中研の中心になつて活躍しているし鳴う会でも熱心、新しい様の記念祭を作るために彼を」

この後三年生の方から「今の二年の盛り上りは倒れてしまいそうだ、盛り上つてから選挙した方がよい」という意見が出されたが結局推薦演説が続けられた。

吉原君(2C)を推薦した吉田君「彼は絶対にウソをつかない、信用のおける。事の運びは遅くても着実に進んでいく」後新たに

陰山君(2C)を推薦する田中君(3B)の演説「さつきの意見を聞き更に力強く思つた。やらせれば絶対にやれる」

続いて候補者の演説が行われた小沢君「体にも自信がないしかしその二年生を見ていると力強いたから受け入れたい」

吉原君「これは僕の能力以上のことだし、どういうふうに持つていくかは二年生にまかせる他はない。もし失敗した場合、自分は体力的、精神的に破壊されてしまう」

陰山君「全然知らない人に推薦されたのだ、深く知らぬ人が推したのだから責任を感じる」

吉原君の陰山君応援、寺田君(斉藤君の小沢君応援が行われ、直ちに投票に入った。

この後、自治委員任期延長について吉田委員長から説明、時間の都合で十分討論されず、後日討論してきめることになつた。それから片山先生から記念祭の事について、大石先生から「森の野獣」の話があり、最後に議長が発表され、小沢君二〇票、陰山君一一票、吉原君三票で第七回記念祭執行委員長に小沢君が決定した。

組織の確立と強化

記念祭執行委員会

去る八日の生徒大会で執行委員長に選ばれた小沢君の招集により当日放課後、第一回の記念祭執行委員会が開かれた。この委員会では専門組織を作る前提として執行特別委員会を作ることを決定、組織が決定するまで全任務を行うことになつた。特別委員会では記念祭ニュースの発行、歌と踊りの会、歌集発行等に協力している。

十八日に開かれた、第二回執行委員会では次のような組織が決定した。総務(情宣、渉外)、ファイヤー、プログラム。

校友会雑誌を刊行

去る六月二十三日、校友会代表者会議が開かれ、今期校友会委員会の活動方針として、校友会雑誌の発行、部内及び部相互の親ぼくのために部対抗の親善試合等に協力援助する事が打出され、確認された。

八・六原水爆禁止世界大会

代表に岡田君(目黒区の代表にも)

ウイーンアピール　夏休に一人十票を

臨時生徒大会

去る十二日の自治委員会で、八月六日に広島で開かれる原水爆禁止世界大会に本校代表を送ることを決定総日の一、二年各ホームルームにおいて承認された。代表決定のために開かれた十九日の臨時生徒大会では代表を送ることの討論、確認、投票に入り討論では反対者の聞くことが主とされにがいずれも根本的には賛成であり、満場の拍手をもつて八・六大会に代表を送ることを確認した。いよいよ投票に入つた。候補者として寺脇(2A)岡田(2C)斎藤(1C)の三君が挙げられ、それぞれ応援演説をもつて投票の結果は岡田一八〇票、斎藤六九票、寺脇六二票で岡田君に決定その岡田君から本校の原水爆禁止に向う力を統合するために生まれた、原水爆禁止協議会の報告がなされ、夏休みに一人十票のウインアツピールを集めようと提案され、満場の拍手をもつて決定した。

我々は臨時生徒大会で八月六日に開かれる原水爆禁止世界大会へ代表を送ることを決定した。原子戦争を準備し私達の"青春を破かいし踏みにじろうとする者への怒りをこめて。

ワルシャワと時を同じくして東京でも平和友好祭が開かれる。今日本中の青年が希望を胸にふくらませて日本祭典に参加しようとしている。幾多の困難や苦しみ、おしひしがれた暗い青春をお破り明るさを勇出して行く力を日本祭典は若者達の心に与えるだろう。多勢の合唱とスクラムの中から明日への力が生れて来るのだ。

"日本祭典に参加"ゆたかな青春と学園のため!　新しい記念祭の創造のために!

主張

夏休みを迎えて

二十日から夏休に入つた。

新制第七回記念祭執行委員会も成立し、記念祭へと準備は進められ始めた。

記念祭についての各クラスの討論は昨年に比してかなりの差がある。どこのクラスでもクラブでもまたその反映である執行委員会でも今年の記念祭を新しいものにというファイヤーを楽しいものにという声が非常に強い。

昨年の記念祭が旧制の余韻を残した割り切れないものであり、女子の問題、ルース等、また記念祭が皆のものにならず結局一部の者のヒロウに終つてしまつた事等が取上げていなかつたりする。

今の二年生ためだ、だめだといわれてはいるがその二年生が中心になる今年の記念祭は大きく変るだろう。今年の記念祭への準備は例年になくうまくいつている。

一、二年の雑談会が持たれたりこのようなことは昨年にはなかつたことだ。そしてそのような中からいで創つて行く記念祭ということが常に強調されている。二十日までに約九割のクラスは劇が決定した。すでに練習を始めたクラスもある。今年の記念祭こそは皆の協力と団結のたまものでなければならぬ。それには記念祭についてもつと多くの話合をすると共に、実務活動を分担してやつて行かなければならない。

去る七月二十一日の臨時生徒大会で八月六日に広島で開かれる原水爆禁止世界大会に本校代表を送ることを決定、代表決定のために開かれた十九日の臨時生徒大会では代表を送ることの討論、確認、投票に入り討論では反対者の聞くことが主とされにがいずれも根本的には賛成であり、満場の拍手をもつて八・六大会に代表を送ることを確認した。いよいよ投票に入つた。候補者として寺脇(2A)岡田(2C)斎藤(1C)の三君が挙げられ、それぞれ応援演説をもつて投票の結果は岡田一八〇票、斎藤六九票、寺脇六二票で岡田君に決定その岡田君から本校の原水爆禁止に向う力を統合するために生まれた、原水爆禁止協議会の報告がなされ、夏休みに一人十票のウインアツピールを集めようと提案され、満場の拍手をもつて決定した。

我々は臨時生徒大会で八月六日に開かれる原水爆禁止世界大会へ代表を送ることを決定した。原子戦争を準備し私達の"青春を破かいし踏みにじろうとする者への怒りをこめて。

ワルシャワと時を同じくして東京でも平和友好祭が開かれる。今日本中の青年が希望を胸にふくらませて日本祭典に参加しようとしている。幾多の困難や苦しみ、おしひしがれた暗い青春をお破り明るさを勇出して行く力を日本祭典は若者達の心に与えるだろう。多勢の合唱とスクラムの中から明日への力が生れて来るのだ。

"日本祭典に参加"ゆたかな青春と学園のため!　新しい記念祭の創造のために!

歴史を創る母親達

日本母親大会に出席して

斎藤正子

日本母親大会はひたすらに子供の幸せにつながつた母親の集りでした。原子戦争を阻止し、本当に平和な社会で、みんな幸せに生きられるようにと願う母の声に共鳴して集つたのが母親大会でした。そして大会は、婦人だけの手で三日間行われました。託児所では保母さんが一生懸命子供をあやしていました。

母親大会二日目のある分科会場で東京の定時制女子高校生が自分のお母さんをつれて来ていました「私は今日母をむりに引張つてきました。父の収入が少いので、母は家二倉しさに耐えようとして一人で苦労をし続けてきましたでも私の家が貧しいのは父や母のせいではないと思うのです。正しいことをしていても食べられないのだから、今の社会に原因があるなどという母は非常に悲しみます。世間には母のような人が多いので、之を社会の問題として解決してほしいのです」と傍のやや老い母親の姿に渡り始めました。涙しい歴史がはじまります。苦しみ悩んでいる母たちは意識せずに歴史を創りかえようとしています

給食費が払えないためにお昼に給食のパン屑を拾つて家へ持つて帰える子、つぶれた中小炭鉱の飢えた子の話。九州八幡では、子供の間に自殺ゴツコがはやつている

太古以来の内向的消極的な母親たちが六月七日を期して、積極的に外へ向つて歩き出したのです。

日本母親大会はひたすらに子供の幸せにつながつた母親の集りでした。原子戦争を阻止し、本当に平和な社会で、みんな幸せに生きられるようにと願う母の声に共鳴して集つたのが母親大会でした。そして大会は、婦人だけの手で三日間行われました。託児所では保母さんが一生懸命子供をあやしていました。

母親大会二日目のある分科会場で東京の定時制女子高校生が自分のお母さんをつれて来ていました「私は今日母をむりに引張つてきました。父の収入が少いので、母は家二倉しさに耐えようとして一人で苦労をし続けてきましたでも私の家が貧しいのは父や母のせいではないと思うのです。正しいことをしていても食べられないのだから、今の社会に原因があるなどという母は非常に悲しみます。世間には母のような人が多いので、之を社会の問題として解決してほしいのです」と傍のやや老い母親の姿に渡り始めました。涙しい歴史がはじまります。苦しみ悩んでいる母たちは意識せずに歴史を創りかえようとしています

給食費が払えないためにお昼に給食のパン屑を拾つて家へ持つて帰える子、つぶれた中小炭鉱の飢えた子の話。九州八幡では、子供の間に自殺ゴツコがはやつている

太古以来の内向的消極的な母親たちが六月七日を期して、積極的に外へ向つて歩き出したのです。

この誤を多くの人にしみじみきいてほしいと思いました。炭鉱や、漁師町での女の子の身売の話も出ました。13才で売春させられた子特飲街へうられていく八幡の炭鉱の子の話一児童憲章は空文化されています。

母親大会は、毎日涙にあけくれしました「泣いていただけでは解決しない。私達は、故郷へ帰つて近所の人と話合い、共に子供を守り、平和を守り、婦人の幸福を守るように、一人で十人に伝えましょう。そして来年又集りましょう。と喜い手も心も結びあつて「原爆を許すまじ」を合唱しました。三階までぎつしりつまつた会場に手をくみ合わせて、右左にゆれる母の波が大きな感動をもり上げて、全会場を揺り動かしました母の森は一つになつていました。

(筆者は本校教諭)

高女共立

「わだつみのこえを」すゝめただけで退学処分

東京の下高中、神田にある共立女子高校で「わだつみのこえ」を読むように友人に薦めたという理由で一学生が退学処分にされた。

この退学問題の発端は父が自由党の役員をしているAさんという人が「わだつみのこえ」を家に持つて帰り、それを父に発見され、その父が学校へ「共立ではこのような勧誘を読むことを許しているのか」と申込み、さらに父兄会でも問題は出され、その圧力も含めて学校側は「わだつみのこえ」を読んでいる学生を一人一人呼び出し「誰に読むように薦められたのか、他に誰が読んでいるか」等と調査を始めた。その結果、Bさんといういつも「わだつみのこえ」を配つてくれる人がわかつてしまつた。Bさんは学校側に呼び出され、主事等に種々聞き出され(休み時間に)授業の鐘が鳴つたので

注目すべき過程と動機

…『森の野獣』上演…

去る七月九日本校講堂において行つた"森の野獣"(俳優座三期会)は成功のうちに終つた。その結果、Bさんの間主催の演研、文研、新聞の努力は高く評価されるべきだと思う特にこの上演をするに当り、二年の協力が強力であつた事は注目に値する。期待された?赤字もなく純益二万五千九百三十九円という好成績であつた。なお旅行委員会ワルソー、広島へ代表を、アコーデイオン、などの方向に使う事を希望し、一応利益金は自治会に贈与となつた。この事は今年の二年の自治活動の一面を表わすもの

その結果八月六日を「世界の平和活動の日」(World day of action for Peace)としこの日には全世界をあげて原水爆の全面的禁止と軍備縮小を要求するよう決議されたが、この決議に基き八月六日には世界の各地で集会や行事が持たれる事になつたように、今度開かれる八・六世界大会はこのような世界的背景の下に開かれる歴史的な集会である。

主な日程は次のようなものだが実質的焦点は広島大会にしぼられる。

広島大会

第一日　八月六日　本会議、外国代表の挨拶、記念式典

第二日　八月七日　分科会

第三日　八月八日　本会議、大会宣言

なお会期中に本大会を記念して次の行事が計画されている。

一、原爆被害者との懇談会、合唱交換会、原爆資料展、平和美術展その他

東京大会

八月十日　大平和祭

日本代表は各都道府県、中央団体から派遣されるが、目黒区にも七人の代表派遣を要請して来ており原水爆禁止運動目黒区協議会では人選を進めているが、本校の岡田君は目黒区の代表に、去る二十一日正式に決定した。

高校生は手をつなごう
――より良き高校生活のために――
――かる開議会生校高都回一第――

先月十九日第一回都高校生会議が文京区本郷公会堂で開かれた。会議のスローガン（より良き高校生活のために）の下に、七八校三五〇余名の高校生が参加した。ここにあらゆる困難を乗越えて伸びていく高校生の姿をみることができた。なお本校からは七十余名が参加した。

理事長の横暴に
生徒、職員団結のスト
二松学舎

午前の部は青山高校の青木議長で議事に入り、各校の報告がなされた。ここで、各校の悩み、問題を我々に共通の事として考えた。以下各校報告。

K女学園はこの会議の参加に対しても圧迫があった程、職員会議が自治活動に干渉することを訴えたこの中でもクラブ活動に映研ができ、学校生活は明るくなりつゝあるとのべた。

三商同じく毛利分校では、男女共学廃止に反対して、闘っている。両校では教師により、男女同権を外来の危険思想として、公然と男女不平等論が唱えられている。又共学に関連し、男女交際について一部の堕落した者のそれを上げて非協力的であると訴えた。毛利分校では、ウインアソピール署名運動の起こってきていることをあげた。女子製学院では、生徒達から憂され、平和愛好家の世界史の教師が首を切られた。彼等は師を失つた悲しみをもつて、平和を愛することのどこが悪いか我々にわからないと訴えた。

二松学舎では、学校の経営者専横事

自主活動の妨げ、受験勉強をしたい、定時制

学校意志はあるが学ぶ時間がない。そして誰にも体に無理がある。一部の堕落した者のそれを上げて一般の生徒に迷惑をかけるとの事は、学校生活の中の問題を自治会に討論の要旨である。会議の終りに都高による朝鮮民謡の紹介、成城高校より「無限の鐘」が上映された。

〝高校生活の中で友情を〟
会議に出席して

僕がこの会議で二番目に感じた点は、第一には高校生が皆、自分自分の力で、高校生活を明るく生きがいのあるものにしようと努力している姿だ。困難で、ともすればなうちのめされそうになる生活の重みに耐え、いばらのように根強く、雑草のようにたくましく生きようと毎日、自分をいましめながら前進している様子がよくわかった。

東華女子高校の人の、豊かな青春と明るい就職のために学校の圧迫があるが、帰宅がおそくなるのでぜひ必要である。この中からも定時高校が生まれ、授業料値上げに反対し、自主映画の製作により団結を強めるなどの活動がなされている。本校においても討論と夜間の話し合いによる連帯を深めていくことが必要である。以上が一般の学校生活の中の問題を自治会にまとめあげていく努力とともに、この網のような友情と団結を、都高校発展の中で築き上げることが必要なのだ。

なによりにもまして、大切なことは、僕達一人一人の友情と団結を、これからの毎日の生活の中でくずれることなく築きあげることだと思う。

（二B　中山　頼明）

名残り尽きない
思い出

歌と踊り、それはまさしく、フアイヤーにふさわしいものであつたあの澄んだブルーの闇の中に忘れられたファイアーは、印象的であつたし、参加した者の喜びとしたいの動きは、そのまま彼等の顔に読みとれた。それから又ふんいきは、羞恥やわだかまりのない楽しいフォークダンスにも感じられた。若い男女が、都高生も都大生も、アコーディオンのかなでるあのオクラホマミキサーのメロディの流れにのつて、しかも今習いたての者が少なくなつたが、けつこう楽しめたのである、フアイアーは夫まで燃え上らんと、それにつれてフアスティバルは最高頂に達した。余興の踊りや大合唱。やがてフアイヤーの燃えつきるころ参加者のすべては、男も女も互いに腕を組み。最後の名残を歌にたくして大きな輪を描いた。（一年M）

いつも素晴しい味、昼の
玉家のパン
都大坂下、玉家製パン店

自主活動の妨げ、受験勉強をしたい、定時制

午後の討論は。まず受験が問題になり、これにより自主的な自治活動クラブ活動が阻まれていることがあげられた。次に、我々が大学入学を経済的な安定への手段と考えていないかが上げられた。結局受験勉強は、人間性を無視した暗記ものをいうものであり、これに盲従するのも、平和運動が、一度に大きく動かせないのと同じように、一足跳びに理想をすすめるのもいけない。我々には特殊な活動必要であるということに落ついたようだ。次に夜間生の差別が訴えられた。昼間の労働の疲で、（さかんな拍手）都立高出安員長は、受験のためにクラブ活動自治活動は止むにならざる得ないとのべ、新一年から勉強会が生まれ、同じ

歌声は八雲ケ丘に……
第一回フアイヤーフェスティバル成功す

さる七月二日今年初めてのファイヤーフェスティバルが都大との共催で開かれた。当日は青空を見せファイヤーフェスティバルにふさわしい天気で多くの参加者が互いに交歓し合いなごやかな一日を、表ファイヤーを最後に十一時ごろ第一回のファイヤーフェスティバルの幕を閉じた。

その日の催物は盛り沢山で昼の部と夜の部に別れ、昼の部ではバレーボール、ソフトボール、そしてテニスの大学との対抗試合水泳の一般レクリエーションとしての大かき競争、サイダーとり、一般の部が終つてからの大学との水球試合又一時から開かれた映画の会では〝平和と友情〟〝無限の鐘〟が一伴奏により〝若者〟〝原爆許すまじ〟等多くの歌を歌い映画会の最後を飾つた。この映画を見た学生達の大半がブカレストで開かれた世界青年学生祭典の予想以上に大きかつた事に感嘆し日本のより多くの参加を望んでいた。又〝無限の鐘〟を見、原爆の恐ろしさを再認識し世間の理解を求めていた。昼の部が終つてから夜の部として多くの思い出を残す有意義なファイヤーが行われた。際会盛るファイヤー、そしてそれを取りまく底し気な中にも希望と喜びに満ち溢れた学生達の顔々、参加者約四〇〇名のもとで予定時刻の八時ちようどに火が点された。皆で歌い皆で踊る学生の集い。そこには何の悩みもない平和と友情の精神が学生全体の心に通い合つていた。其の夜は昼の映画の会に最後の締くくりとしてアコーディオン伴奏をしてくれた、河村君も出席され歌とフォークダンスの伴奏をしてくれた。フェスティバルは九時半ごろ絶頂に達し歌声は八雲ケ丘にこだまし、ファイヤーは後空を圧倒するまでに燃え広がり色々変つた様しを空も飛び出しなごやかな雰囲気をかもしだしていた。又一年の堕る組ではその雰囲気に浮かれてファイヤーが終つた十二時後までもコンパをしに居り笑い声が運動場の片隅から絶えず起つて居た。この大成功を収めたフェイヤーフェスティバルは果して毎年行われて行くであろうか。この計画が具体的に高校側に持ちこまれたのがフェスティバルの四、五日前ではこれ以上を望むわけにはいかないだろう。いや「これだけ短い期間であれだけ立派な……」と考えれば来年はより以上の成果を収める事が出来るのではないか。このフェスティバルこと特に一年生に取つては有意義な経験であり「記念祭が前年以上に進歩したものになるだろう」と肩る向きの人も少なくない。ファイヤーフェスティバル誕生一年であれだけの成功を収めたからにはこれを継持し且つ進歩させる責任が高校側にもあるわけで今後の発展を願つてここに一、二年生の感想を掲げて見た。

夏休を前にして
各クラブとも
活発な計画

いよいよ二十一日から夏休みに入ることとなつた。記念祭を後に控えた夏休みには、各部とも大きな期待をかけていると思われる。運動部では合宿や練習、文化部でも力強い息込みをみせている。普通は十分な練習が出来ないのであるが、夏休みこそ思う存分活動出来る最上の時期であろう。この夏休みこそ思う存分活動出来る最上の時期であろう。この夏休みの活動の結果は秋の活動に大きな影響を与える。そこで各部の夏休みの計画を聞いてみた。

○…音　楽

夏休みは毎週火曜と全体練習を行う。練習する予定の歌はアマリリス、峠の我が家、ケヴィンベリ、だんなの鹿狩り、ヴオルガ下り、アビイニヨンのほしで、その他。また出来たらオペレッタをやりたい。コンパもやる予定である。

○…天　文　部

天文部では、七月二十二日から八月四日まで（七時から十時まで）月面連続観測を七月二十八日から八月六日まで（九時から十一時まで）太陽の黒点観測を、八月十一日から八月十五日まで徹夜で流星観測（ペルセウス）を、また八月十八日から八月二十一日まで（七時から十時まで）夜間天体観測を行う予定である。

○…文　研

文研は夏休み部としての研究会その他の集いは行わない。その代り個人的な研究を行う。夏休みの研究は九月中の研究会で発表する。その結果を校内に報告する意味で記念祭に〝止くれ〟をその特集として発行する。従つて文研は夏休みから記念祭の仕事を開始する。

しかし個人についても主題はあくまで二つにする。〝平和〟または〝戦争の人間に与えた影響〟とする。これは文研で近ごろ問題になつたものである。広く歴史を上下し、広く対人間関係、書物の世界に求めたいと考えている。部外者でもこの問題に関心のある方は参加してほしい。

○…演　研

本年度の活動の一環として行つた、文研、新聞部と共催の「映の誕生」公演が、意外に成功を収めたことはまつ先ではなくてはならないことろ意見も多いので、出来るだけ出場したいと思つている。しかしその予選の日取が十月十六日なので、余程休み中に今までの分を取り返し充実しない限りむつかしいだろう。その意味でも今年の夏休みは、相当稽古をしなければならないだろう。従つて部員諸君の一層の奮起を望むと共に、部員以外の方の協力も出来るだけお願いしたい訳である。

○…庭　球　部

庭球部では、夏休みの中、七月二十二日から二十九日まで、学校で練習を行い、そして七月三十一日から八月の五日まで軽井沢で合宿を行うことになつている。

○…バスケット部

バスケットというものは基礎の技術が大切なのであつて、個人がしつかり基礎技術をつけないまゝにチームプレーをする事は何の価値もないのである。それで私達は夏休みに基礎技術を十分につける事を目的として特訓に練習を行つて、今年の記念祭の上演脚本として、今小川宋明の「赤いローソクと人魚」の稽古に取り掛つている。これは長い間の「何か芸語劇を」という皆の希望が、やつと実現されたもので皆も可成協力願いたいと思う。

○…卓　球　部

練習は週二回行い、合宿は八月も含めて、沼津合宿第六期に全員参加する。ここでは充分に楽しもうとするもので練習は一切除かれている。夏休み一杯は一週四日の練習を行うが、九月定期考査の二週間前に一応打切る予定である。

水泳部の練習は他の運動部に比べて相当にきつい。水泳の性質から夏休みに基礎技術を十分につけることを目的として特訓に練習を行つて一年生を部に溶けこませたい。

記念祭を不明確ながらも理解

七月二日ファイヤーフェスティバルの日だつた。「ファイヤーフェスティバル」初めはこれが何であるかをあまり良くわからなかつた。これは今年初めての試みとして行なわれたのであるが、また大学と連絡してバレー、水泳試合と色とりどりの催し物がくりひろげられ最後にファイヤーをかこんで若者の歌をはじめとして数々の歌声があの広いグラウンドにこだました大学高校入り混つてフオークダンスを楽しみながやかな雰囲気であつた。

明日の生活力

そのフアイヤーがあつた翌日、クラスの皆んに「タベ」来たがどうかたずねて見た。結果としては半数位が出席したかのように思われ、残念であつた。しかしあのフォークダンス、若い歌声に、そして皆の赤い顔をして踊つてたつている様子が想像出来たら誰も出席する気持になるであろう。たとえ想像出来なくとも「あんなのは面白くない」と自分自身の経験もなしにきめてしまう事は良くない。「面白い」と思つたなら誰もが参加出来るよう願いて行く事こそ大事ではないであろうか。とかく学校の仕事に追われている僕達は、一晩あの様に過したならばどんなにか明日の生活力が出て来るにちがいない。だから是非ともあのような行事に参加するよう皆に訴える。（一年Y）